

セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモ

セアカゴケグモ (オーストラリア^{げんさん}原産)、ハイイロゴケグモ (亜熱帯地方^{あねったいちほうげんさん}原産)

は特定外来生物に指定されている小型^{こがた}のクモです。国内では両種とも1995年^{ねん}に

初めて^{はじ}発見^{はっけん}されました。その後、分布域^こが拡大^{ぶんぷいき}し、セアカゴケグモは45都道府県^{かくだい}、

ハイイロゴケグモは13都道府県^{とどうふけん}で生息^{せいそく}が確認^{かくにん}されています (2019年8月8日^{ねん}現在^{がつ})。



背面

腹面

アセアカゴケグモ雌 (成虫)
体長: 約10.0mm

腹部腹面に赤色の砂時計様斑紋をもつ

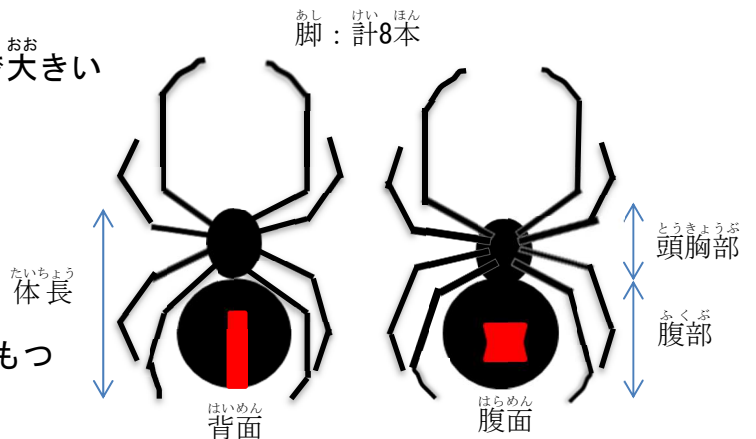


写真提供: 国立感染症研究所
昆虫医科学部

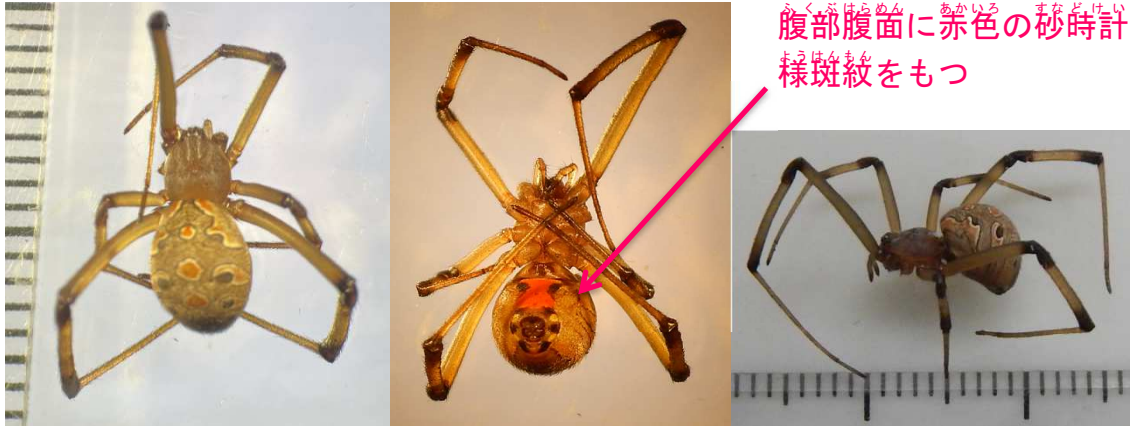
セアカゴケグモの卵囊 (写真左) と
セアカゴケグモ雌 (成虫)
卵囊の大きさ: 約10.0mm
・卵囊の中に卵が入っています

[セアカゴケグモの特徴]

- 脚が細長く、雌では腹部が球形で大きい
- 全体が光沢のある黒色
- 腹部の背面に赤色の帯状の模様
- 腹部腹面に赤色の砂時計様斑紋をもつ



● 毒をもつのは雌だけです。



腹部腹面に赤色の砂時計
様斑紋をもつ

背面

腹面

側面

写真のハイイロゴケグモは、左右の脚が各1本失われています。通常脚は計8本です。

ハイイロゴケグモ雌（成虫）
体長：約10.0mm

[ハイイロゴケグモの特徴]

脚が細長く、雌では腹部が球形で大きい

腹部背面には斑文が点在

腹部腹面に赤色の砂時計様斑紋をもつ

● 毒をもつのは雌だけです。

生態

通年活動をしています。冬季は自動販売機の裏側などの暖かい場所に生息しています。

おとなしく攻撃性はないので、素手で掴んだりしない限り咬むことはない

いわれていますが、張っている網に触れると餌と間違えて咬みつかれる可能性

があります。

似たクモを見つけても、素手で捕まえたり、触らないようにしましょう。

生息場所

- 日当たりの良い暖かい場所

屋外のブロックやプランターの底、室外機の裏、排水溝の側面や蓋の裏、

パイプ内、庭に置いた靴など

- 餌となる昆虫などが多い場所

- 巣を張れる隙間がある場所

予防対策

- 屋外で作業をおこなう場合は、軍手などを着用しましょう

- 屋外に置かれたままの傘、おもちゃなどに付着していることがあります

ので、注意しましょう

駆除方法

- ピレスロイド系の家庭用殺虫剤（ゴキブリ用など）の使用

[注意] ピレスロイド系殺虫剤は魚類に対して毒性があることから、周辺の

環境を把握した上で使用しましょう

- 熱湯をかける

- 靴で踏みつぶすなど

咬まれた場合

- すみやかに医療機関を受診してください
- 咬んだクモの種類がわかるように、できれば殺したクモを病院へ持参してください

咬傷例

- 国内でのセアカゴケグモの咬傷例は、主に6～10月に報告されています
- セアカゴケグモの咬傷例のほとんどが軽症ですが、重症化することもあります
- 国内ではセアカゴケグモの毒で死亡した例はありませんが、オーストラリアでは死者が報告されています（血清開発後の死亡例はありません）

症状

局所の疼痛、熱感、痒み、紅斑、リンパ節の腫れなど

通常は、数時間から数日で症状は軽減しますが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、

不眠などの全身症状が数週間続くことがあります（重症例では、進行性の

筋肉麻痺が生じます）。

ゴケグモ類に間違えられやすいクモ



はいめん
背面



はらめん
腹面

ふくぶはらめん あかいろ すな
腹部腹面に赤色の砂

どけいよう はんもん
時計様の斑紋なし

マダラヒメグモ

たいちよう やく
体長：約6.0mm

* ゴケグモ類：セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、クロゴケグモ等

さんこうしりよう 参考資料

1. かんきようしょうがいらいせいぶつたいさくしつ
環境省 外来生物対策室：セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモにご注意く
ださい！（2019年8月8日）
2. こくりつかんせんしょうけんきゅうじよ かんせんしょう はなし
国立感染症研究所：感染症の話「セアカゴケグモ咬症とは」（2013年
2月1日）